

日米交渉經緯概況

第一節 第一次近衛內閣ニ於ケル日米交渉經緯

日米交渉ハ昭和十六年四月十八日野村大使ヨリ別紙第一ノ如キ非公式
試案（日米諒解案ト假稱ス）ヲ基礎トスル對米交渉開始ニ關スル諸訓
令電ヲ契機トシテ兩國政府ニ依ル正式交渉開始セラレタリ
右日米諒解案ノ要旨左ノ如シ

一 日米兩國ノ抱懷スル國際及國家觀念

日米兩國ハ固有ノ傳統ニ基キ國家觀念及社會的秩序並國家生活ノ

基礎タル道義的原則ヲ保持シ之ニ反スル外來思想ノ跳梁ヲ許容セス

二 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本側ハ三國同盟カ防禦的性質ノモノニテ三國條約ニ基ク軍事的

援助義務ハ締約國ノ一カ^{現ニ}歐洲戦争ニ參入シ居ラサル國家ニ依リ積極的ニ攻撃セラレタル場合ニノミ發動スル旨ヲ聲明シ米國側ハ其歐洲戦争ニ對スル態度ハ專ラ米國ノ福祉及安全ヲ保護スル考慮ニヨリテノミ決定セラルルモノナルコトヲ聲明ス

三、支那事變ニ對スル兩國政府關係

米國大統領カ(イ)支那ノ獨立(ロ)日支間協定ニ基ク在支軍隊撤退(ハ)排併合(ニ)無賠償(ホ)門戶開放(ヘ)汪蔣合流(ト)日本ヨリ大量移民ヲ支那ニ送ラサルコト(チ)滿洲國承認ノ各項條件ヲ容認シ且日本政府力之ヲ保障スルニ於テハ米國大統領ハ蔣介石ニ對シ右ノ基礎ニ於テ日本ト和平ヲ交渉スヘキコトヲ要求スヘク然ル上日本政府ハ右條ニ從ヒ善隣友好共同防共、經濟提携ノ趣旨ヲ以テ明確ナル對支和平條件ヲ提示シ日

支直接交渉ヲ開始ス

四太平洋ニ於ケル海空軍及海運關係

日米相互ニ他方ヲ脅威スルカ如キ海空軍ノ配置移動ヲ行ハサルコ

ト、交渉成立ノ上ハ艦隊ノ交換訪問ヲ行フコト、日本ハ所有船舶

ノ或部分ヲ主トシテ太平洋方面航航ノ爲米國側ニ使用セシムルコ

ト

五兩國間ノ通商及金融提携

通商條約ヲ締結シ相互ニ必要物資ヲ交換スヘキコト竝ニ米國ハ日

本金借款ヲ與フヘキコト

六南西太平洋ニ於ケル國ノ經濟活動

日本側ニ於テ專ラ平和的行動ヲ目トシ武力ヲ行使セサルコトヲ約

二

シ其ノ代償トシテ米國ハ日本ノ必妥トスル「石油」「ゴム」等資
源ノ獲得ニ協力スヘキコト

セ太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

日米兩國カ(イ)極東及南西太平洋地域ノ領土ノ歐洲列國ヘノ移讓ヲ
認メサルコト(ロ)比島ノ獨立ヲ共同保障スルコト(ハ)米國及南西太平洋
方面ヘノ日本移民ニ對シ差別待遇ヲ爲ササルコト

右ニ對シ帝國ハ五月十二日別紙第二ノ如キ修正案ヲ行ヒ野村大使宛別
紙第三ノ如ク電報スル所アリ

右修正案ハ米側提案ヲ相當根本的ニ修正シタルモノニシテ

一特ニ三國條約義務ニ關シテハ「軍事的援助義務ハ第三條ニ規定セ
ラルル場合ニ發動セラル」ト修正シ

ニ又支那事變ノ項ニ付テハ米國案ノ列舉事項ヲ削除シテ其代リニ米國
ハ「近衛三原則日支基本條約及日滿華共同宣言ノ原則ヲ了承シ我
善隣友好政策ニ信賴シテ蔣政權ニ對シ和平ヲ勸告スヘシ」

(別ニ勸告ニ聽從セサレハ援蔣政策ヲ中止スル旨ノ約束ヲ取付ク)

ト改メ

三尙第四項(海空軍及海運關係)ハ全文削除第五項ノ金借融款借與
件モ削除セラレタリ

野村大使ハ五月十二日九修正案ヲ「ハル」長官ニ手交シ其後十數次
ノ會談ヲ重ネタル結果六月二十一日不國政府ヨリ別紙第四ノ如キ日
米諒解案ノ再度提示アリタルカ(之ヨリ先五月三十一日右六月二十
一日案ニ到達スル中間案ノ提示アリ)右ハ五月十二日附日本案トハ

三

2094

根本的ニ相違シアルノミナラス四月十六日附米側原案ヨリモ幾多ノ點
ニ於テ逆轉シアリ即チ

一三國條約問題ニ關シテハ同條約ノ目的ヲ「挑發ニ依ラサル歐洲戰
争ノ擴大防止ニ寄與セントスル」ニ在リト修正ス（米國カ歐洲戰
争ニ參戰スル際ハ米國ハ必ス獨逸ヨリ挑發ヲ受ケタリト主張スヘキ
ニ付此場合日本ハ參戰義務ナキコトトナルヘク之カ米國ノ狙ヒ所
ナリ）ト共ニ他方米國ノ立場ハ「防禦ト自衛ノ考慮」ニ依リテ其
態度ヲ決スト改メ（自衛ノ觀念ヲ擴大セハ米國ハ容易ニ參戰シ得ル
コトトナル）ラレタリ從ツテ右ハ四月十六日案ニ比シ米國參戰スル
モ日本ハ中立スヘシトノ思想ヲ遙ニ露骨ニ表示シ居ル次第ナルカ尙
同案ニハ帝國ニ於テ到底受諾シ得サル交換公文案附屬シアリ

ニ支那問題ニ關シテハ米國政府ハ日本政府ヨリ日支和平條件カ近衛

諸原則ト矛盾セサルコトヲ通報セラレタルヲ以テ米國大統領ハ蔣政

府ニ和平交渉ニ入ルコトヲ建議スヘシト云フ形ニ變更セラレ且日支

間經濟協力ニ關シテハ(1)優先的獨占的專業(例ハハ國策會社)ハ不

可ナリ(2)第三國人ノ貿易及旅行ニ制限ヲ撤廢スヘシ(3)貿易、通貨

爲替事項ニ付支那ニ完全ナル統制權ヲ與フヘシトノ三項ノ要望附

付シアリ

三、兩國通商ニ關シテモ亦非常事態ノ存續中米國ノ必要トス國防資源

ノ輸出制限ヲ行ヒ得ル旨ノ但書附加セラレ

四、東西太平洋ノ經濟的活動ニ付テハ不案ハ之ヲ太平洋地域トシ且國

際通商無差別原則ノ適用ヲ規定シ

五 太平洋ノ政治的安定ニ關シテハ日本國力領土的野心ヲ有セサルコ

トヲ規定シ移民問題ヲ削除シタリ

別ニ「オースラル、ステートメント」添附アリタルモ後ニ米側ニ於テ

撤回セリ

右案ニ接シタル帝國ハ七月二日獨「ソ」開戰ニ伴フ國策ノ要綱決定

後再三大本營政府連絡會議ヲ開催シ之ヲ檢討セル結果七月十四日之

ニ大修正ヲ加ヘ大體ニ於テ我方五月十二日案ニ復歸セル討案ヲ決定シ

タルカ陸海軍及近衛總理等ト松岡外相トノ主トシテ對米交渉意見ノ對

立ニ依リ七月十六日第二次近衛內閣退場シ右對策ハ米國側ニ手交ノ

機會ナクシテ終レリ

七月十日大本營政府連絡會議席上松岡外相カ齋藤顧問ヲシテ開陳セシ

メタル六月二十一日米側提案ニ對スル意見ノ要旨別紙第五ノ如シ

第二節 第三次近衛内閣ニ於ケル日米交渉経緯

日米交渉ハ第二次近衛内閣退場ニヨリ一時停頓状態ニ陥リ第三次近衛内閣成立後間モナク既定方策タル帝國軍隊ノ南部佛印進駐トナリ其結果日米關係ハ頓ニ惡化シ兩國相互ニ資産凍結ヲ行ヒ遂ニ事實上ノ經濟斷交ニ發展セリ

帝國ハ局面打開ノタメ百方手ヲ盡ス所アリ即チ七月二十四日附米國ノ佛印中立ニ關スル提案竝七月三十一日附米國ノ佛印及泰中立ニ關スル提案ニ對シ八月四日佛印ヲ中心トスル局地的解決案（我方ハ佛印ヲ基地トシテ隣接地域ニ行動ラセサス英米ハ資産凍結ヲ解除ス）ヲ米側ニ提示シタルモ結局何等交渉ノ進展ヲ見ス是ニ於テ帝國ハ八

五